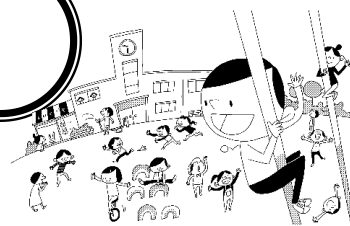


どうとくのひろば



3年生の道徳の授業

主題名：友達ならどうする

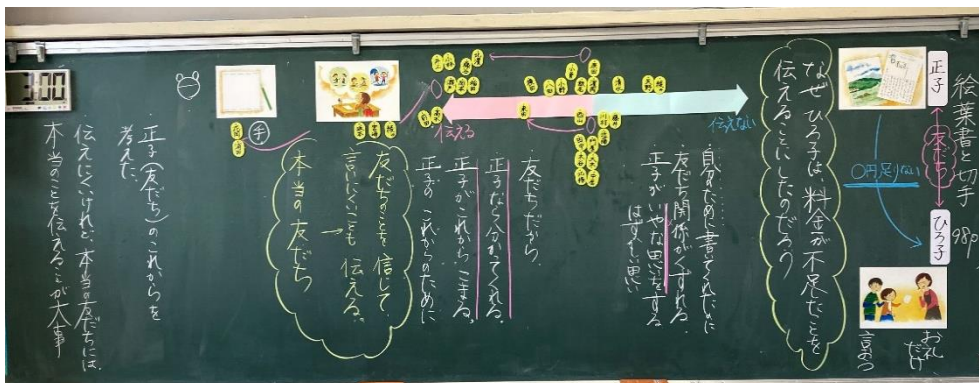
ねらい：【友情、信頼】

教材名：「絵葉書と切手」

あらすじ：転校した正子から絵葉書が届いたが、定形外のため料金不足だった。そのことを正子に伝えるかどうか迷ったひろ子は、友達だからこそ間違いを伝えることを選んだ。

授業での具体的な様子

子供たちは、授業前に、友達とはどのような人か考えていました。「休み時間に一緒に遊ぶ人」「困ったときに助ける人」という考えが大半でした。



本文を読み、友達である正子から届いた絵葉書の料金不足について、伝えるほうがよいという兄とお礼だけにした方がよいという母の考えを聞いたひろ子がどうするか悩んだところで、「みんながひろ子さんだったら、料金不足のことを伝えますか」と問いました。伝えるが赤、伝えないが青の心の矢印（心メーター）上に名前磁石を置き自分の考えを表出させました。伝えるという子供が半数、迷っているや言わないことを選択した子供が半数いました。心メーターに示したことで、思いの強さに違いがあることを知り、友達の考えを聞いてみたいという思いを高めていました。

その後、伝えるかどうか迷ったひろ子がなぜ伝えることに決めたのかについて話し合いました。「正子さんに悪気はなかったし、自分のために手紙を書いてくれたんだから、許してあげた方がいい」「料金が足らなかったなんて言うと、嫌な思いをするんじゃないかな」「でも、教えてあげないと、正子がこれから困るかもしれないよ」などと、両方の思いを捉えていきました。そして、ひろ子と正子を自分と友達に置き換えながら、「正子は友達だから、分かってくれるよ。自分だったら教えてほしいな」「体育の審判の時だって、本当の友達だからこそごまかさずに正しいことを伝えたら、お互いに気持ちがよかったよ」と、相手を信じる気持ちや、友達だからこそ伝えた方がよいという思いを共有し、友達とよりよい関係を築いていく際に大切なことについて考えを深めていきました。

最後には、これからの自分について考えました。友達との対話を通して、「はじめは関係が崩れるかもしれないから、黙っていようと思った。やっぱり伝えるのには勇気がいるけど友達のことを考えると、相手のことを信じて伝えるようにしたい」と行動の難しさを感じながらも、これからの生活につなげようとする姿が見られました。

----- 切り取り -----

道徳だよりへのご質問・ご感想

() 年 () 組 児童名 ()

